

タイトル		ブラジル日系コロニアにおける文化資本の再生産		
分野	キーワード	①文化資本	②エスニシティー	
社会科学				
研究者氏名: 紀 葉子 (所属: 社会学部社会学科)		[お問い合わせ先] TEL: 03-3945-7441 メールアドレス: kino@toyo.jp		

【概要】

ブラジルにおいて日系コロニアが創造してきた豊かな文化資本は次の世代に相続される機会においても豊かであるとはいえない。相続すべきは次世代だけではなく、BRICs 進出を目指すかつての送出国である日本でもある。

【研究内容】

サンパウロ老人クラブ連合会の協力の下 2008 年度に質問紙を用いた調査を実施したところ、日系コロニアの主たる構成員である一世ないし準一世世代の徹底した教育機会の剥奪が明らかになった。高等教育を受ける機会を得たものは稀であり、義務教育課程で修了しているものが過半数を超える。親の世代の徹底した教育機会の剥奪が教育への憧憬となり、子どもの教育機会を「創造」というべきであろう。が、調査協力者の実に 85%が子どもを大学へと進学させているが、ブラジルの大学進学率が今日においてなお 15%程度であることを鑑みれば驚異的でもある。日系人の集住地域では日本語学校が創られ、日本語教育を通して「日本的なもの」の継承が試みられてきた。言語能力としての日本語のみならず、例えば、挨拶の仕方を通して日本的な学びの姿勢を身につけさせるような教育である。継承言語としての日本語教育は、その担い手が少なくなるとともに3世、4世による需要も乏しく、それにとって代わるように、新しい日本語教育が台頭しつつある。祖父母、両親から相続した日本文化ではなく、新しい日本文化との出会いが日本語への関心の扉となる傾向は、世界的に広がる Cool Japan のムーブメントと重なっている。

継承言語としての日本語教育がコロニアで再生産されるための母国からの支援は極めて乏しく、今日における退潮傾向に大きな影を落としている。ブラジル進出企業が日本語能力を有する日系人を尊重することは稀であったし、日本に迎えても出稼ぎ労働者として搾取するだけでかれらとともにブラジル社会で成長する戦略を持ち得なかった。ジャポネース・ガランチードとしてブラジル社会において確固たる地位を築き上げてきた日系コロニアを支援しつつ支援される関係性を構築してゆくことこそが、今世紀におけるブラジル進出の大きな鍵であろう。

(本調査研究は「ブラジル日系コロニアにおける再生産構造をめぐる現地調査」として2008年度から2011年度にかけて科学研究費の補助を受けて行ったものである)

【実用化・活用が見込まれる分野・対象業種等】

文化交流事業 BRICs 進出企業

【関連特許】(特許名称・出願番号等)